

ウネナシトマヤガイの確認状況

潮間帯生物の定量採取・分析で、**1工区の低潮帯**においてウネナシトマヤガイ（千葉県レッドデータブック記載種，ランク:A）の生貝1個体を確認した。

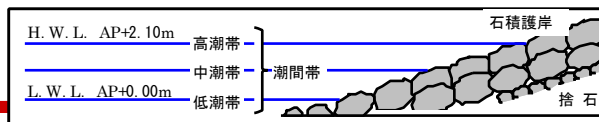


ウネナシトマヤガイ
(千葉県レッドデータブック記載種, ランク:A)



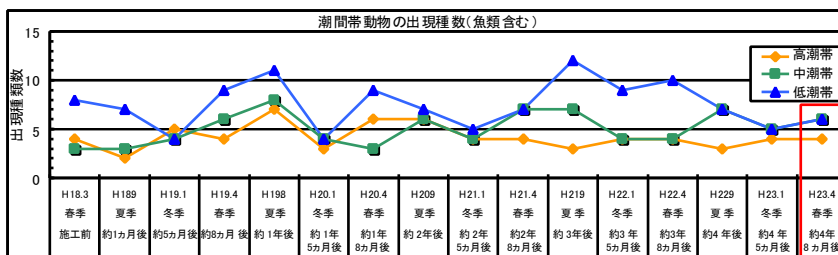
確認箇所は、1工区測線上低潮帯で1個体である。

1工区 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ① 種類数



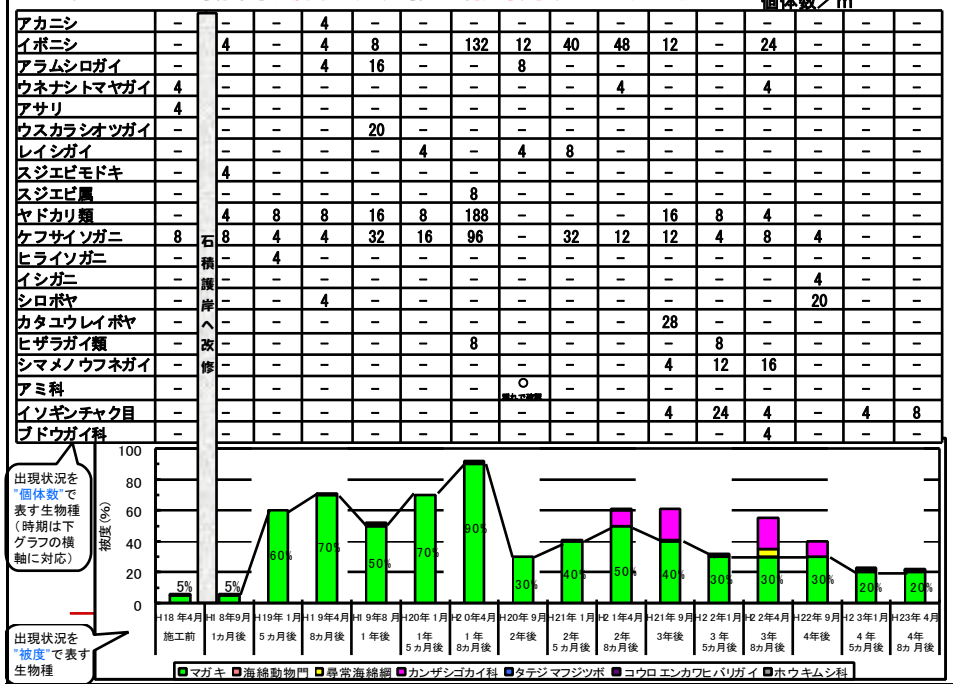
1工区における施工後の潮間帯動物の種類数比較(ライトランセット法) 種類数/0.25m²

施工後	施工前 H18.3	約8ヵ月後 H19.4	約1年8ヵ月後 H20.4	約2年8ヵ月後 H21.4	約3年8ヵ月後 H22.4	約4年8ヵ月後 H23.4
観察場所	(直立護岸)	(石積護岸)				
高潮帯	4	4	6	4	4	4
中潮帯	3	6	3	7	4	6
低潮帯 (うち魚類)	8 (3)	9 (0)	9 (1)	7 (1)	10 (0)	6 (1)
水温(°C)	12	14.3	12.9	17.9	11.2	16.9
D0(mg/L)	10.1	7.8	6.4	12	5.8	7.0



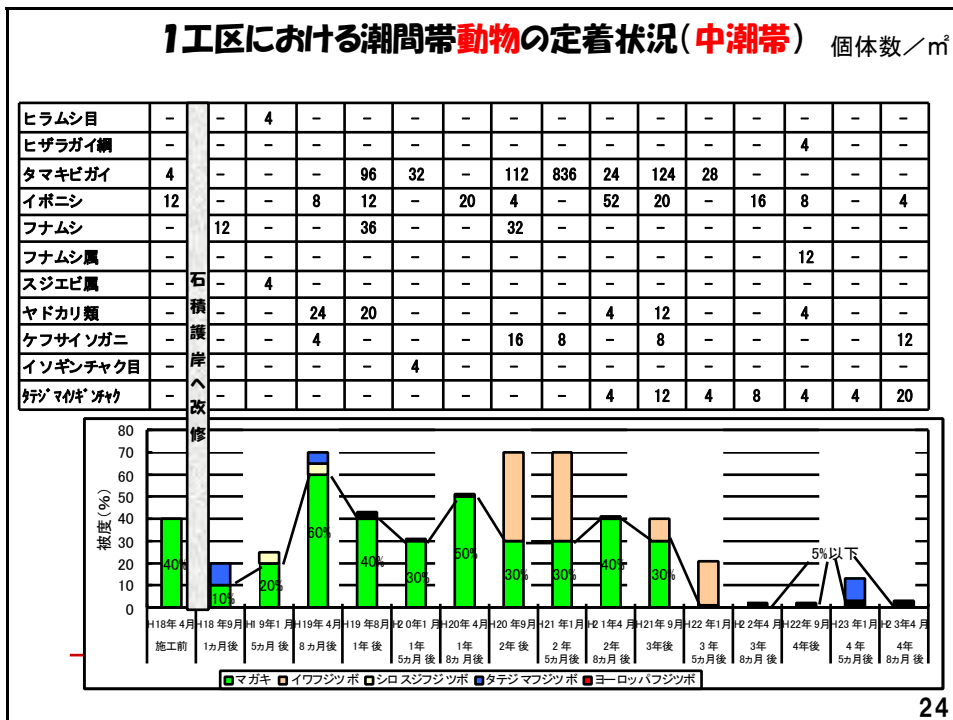
1工区における潮間帯動物の定着状況(低潮帯) ※魚類は除く。

23



1工区における潮間帯動物の定着状況(中潮帯) 個体数/m²

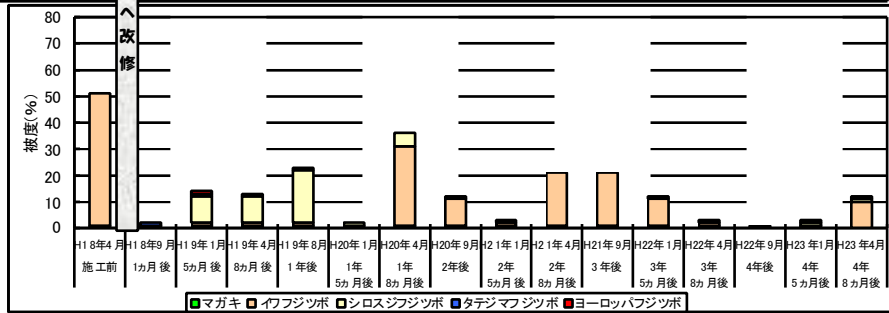
24



1工区における潮間帯動物の定着状況(高潮帯)

個体数/m²

タマキビガイ	64	-	-	-	164	8	40	684	16	192	240	220	88	128	8	16
アラル タマキビガイ	12	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フナムシ属	-	-	-	-	8	-	-	10	-	-	-	-	-	12	-	-
タデジマ イソキンチャク	-	石積 護岸	-	-	-	-	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-
イボニシ	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
レイシガイ	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-



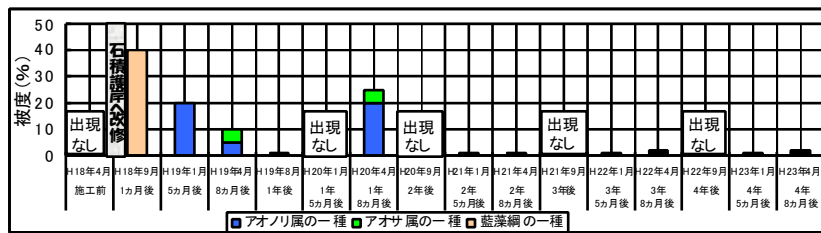
25

1工区における潮間帯植物の定着状況

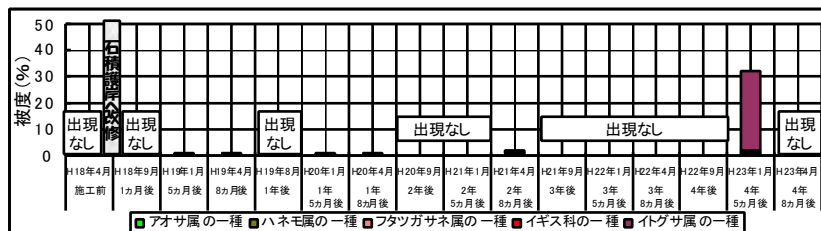
高潮帯

高潮帯は、施工前、施工後とも潮間帯植物はみられない。

中潮帯



低潮帯



26

**その他 ～2工区(No.46)～
(施工後約3年8ヵ月)の状況**

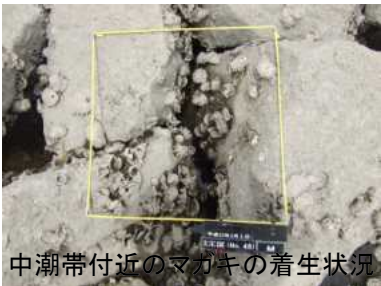
昨年春季調査(H22年4月)と比較して、フジツボ類が高被度となった他は、ほぼ同様の出現状況であった。



高～中潮帯の石の表面に高被度で付着するイワフジツボ



高潮帯～低潮帯の石積み間隙で確認されたイボニシ

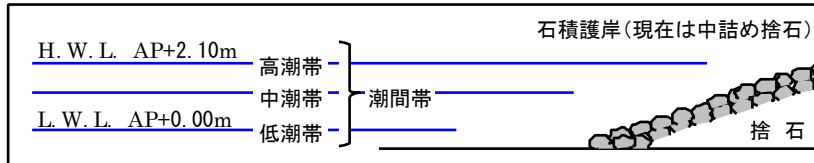


中潮帯付近のマカキの着生状況



捨石のり先付近のカキ殻間隙で確認されたチチブ属

2工区 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ① 種類数



2工区における施工後の潮間帯動物の種類数比較(ライトランセクト法)

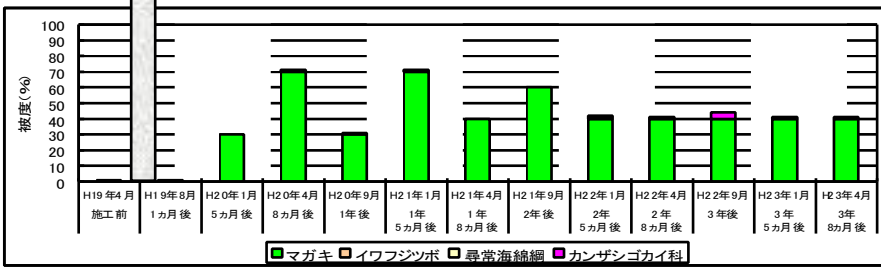
種類数/0.25㎡

	施工前 春季 H19年4月 (直立観岸)	約1ヵ月後	約5ヵ月後	約8ヵ月後	約1年後	約1年 5ヵ月後	約1年 8ヵ月後	約2年後	約2年 5ヵ月後	約2年 8ヵ月後	約3年後	約3年 5ヵ月後	約3年 8ヵ月後
		夏季 H19年8月	冬季 H20年1月	春季 H20年4月	夏季 H20年9月	冬季 H21年1月	春季 H21年4月	夏季 H21年9月	冬季 H22年1月	春季 H22年4月	夏季 H22年9月	冬季 H23年1月	春季 H23年4月
(石積護岸: 中詰捨石)													
高潮帯	7	2	3	5	7	5	5	6	4	5	7	3	7
中潮帯 (うち魚類)	5	5	2	3	4	3	6	7 (1)	5	4	6 (3)	6	8
低潮帯 (うち魚類)	7 (0)	5 (1)	3 (0)	6 (1)	10 (5)	6 (0)	3 (0)	7 (2)	7 (0)	8 (1)	6 (2)	3 (0)	11 (1)

※種類数には魚類を含む。

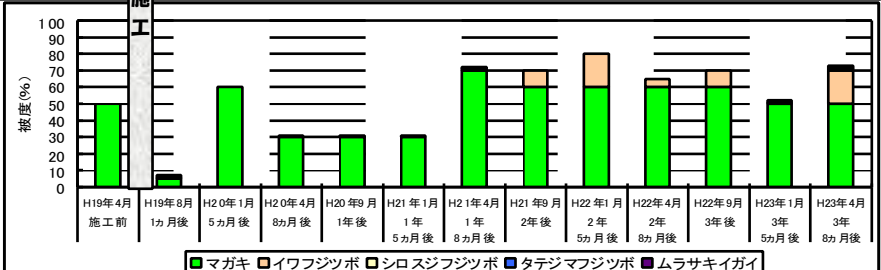
2工区における潮間帯動物の定着状況(低潮帯) ※魚類は除く。 29

種名	個体数	H19年4月 施工前	H19年8月 1ヵ月後	H20年1月 5ヵ月後	H20年4月 8ヵ月後	H20年9月 1年後	H21年1月 1年 5ヵ月後	H21年4月 1年 8ヵ月後	H21年9月 2年後	H22年1月 2年 5ヵ月後	H22年4月 2年 8ヵ月後	H22年9月 3年後	H23年1月 3年 5ヵ月後	H23年4月 3年 8ヵ月後
タマキビガイ	-	-	-	-	-	-	144	-	-	132	-	-	-	-
イボニシ	-	16	-	-	68	16	12	20	-	4	12	-	12	
アラムシロガイ	16	16	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	
アサリ	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クロガイ	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
好シマイキンチャク	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	8	16	
イソキンチャク目	4	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	4	
シママウナガイ	-	12	-	-	-	4	-	-	-	16	-	-	-	
ヤドカリ類	16	8	4	36	-	-	-	8	-	4	4	-	8	
ケフサインガニ	12	-	-	12	12	4	-	12	8	4	-	-	8	
ヒライソガニ	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アミ科	-	-	-	○ (観れで確認)	-	-	○ (観れで確認)	○ (観れで確認)	-	-	-	-	-	
スジエビ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	12	
ヒザガイ類	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



2工区における潮間帯動物の定着状況(中潮帯) 30

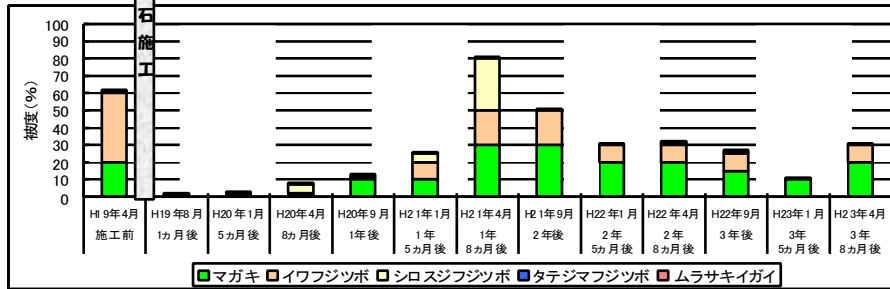
種名	個体数	H19年4月 施工前	H19年8月 1ヵ月後	H20年1月 5ヵ月後	H20年4月 8ヵ月後	H20年9月 1年後	H21年1月 1年 5ヵ月後	H21年4月 1年 8ヵ月後	H21年9月 2年後	H22年1月 2年 5ヵ月後	H22年4月 2年 8ヵ月後	H22年9月 3年後	H23年1月 3年 5ヵ月後	H23年4月 3年 8ヵ月後
タマキビガイ	464	-	-	-	-	888	1200	-	120	-	-	16	8	
イボニシ	24	4	-	-	8	-	-	4	-	4	-	-	16	
レイシガイ	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	
アラムシロガイ	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤドカリ類	12	-	-	-	-	-	8	16	-	8	4	-	-	
ケフサインガニ	-	4	-	4	-	-	4	8	-	-	-	-	-	
アミ科	-	-	-	-	-	-	-	○ (観れで確認)	-	-	-	-	-	
好シマイキンチャク	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4	24	



2工区における潮間帯動物の定着状況(高潮帯)

個体数/m²

タマキビガイ	756	-	-	4	2560	368	580	180	196	252	52	152	8
カラマツガイ	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
行ジマイクンヂヤウ	12	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	24
イボニシ	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	4	-	16
レイシガイ	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フナムシ	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-



31

2工区における潮間帯植物の定着状況

高潮帯

高潮帯は、施工前、施工後とも潮間帯植物はみられない。

中潮帯



低潮帯



32

**その他 ～乱積み施工部～
(施工後約3年8ヵ月後)の状況**

冬季調査(H23年1月)と比べて、イワフジツボの被度が高くなった他はほぼ同様の出現状況であった。



高潮帯の石積み表面に付着する
タマキビガイ、フジツボ類



中潮帯付近のマガキの
着生状況



中潮帯付近の石積みで確認された
アメフラシ



石積みのり先砂底域で確認され
たサルボウガイ

33

**その他 ～L-2 (測線No.58)～
(施工後約2年10ヵ月)の状況**

H20年6月に施工: 冬季調査(H23年1月)と比べて、石積み部の潮間帯動物の出現種類数が多く、マガキの被度は若干高かった。



高潮帯の石表面には、イワフジツボ、タマキビガイ、マガキが確認された。

中潮帯の石表面に高被度で付着するマガキ



低潮帯付近では、マガキ、スジエビ属、ケフサイソガニおよび魚類のチチブ属などが確認された

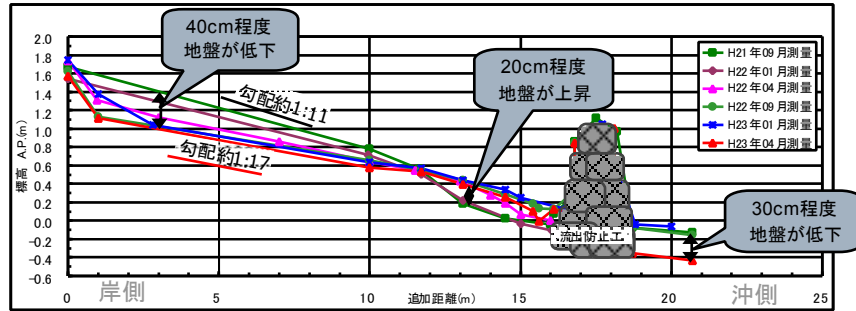


34

4. 砂付け試験

① 地形測量測量結果

砂付け試験箇所における1年7ヵ月間の横断面変化



地形測量測線

35

② 置き砂の形状把握

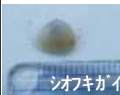




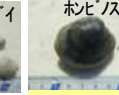




H22年3月～4月の期間に土砂移動による地形変化がみられた。高波浪が置き砂に作用して後浜部の土砂が置き砂方向へ移動したと推察される。

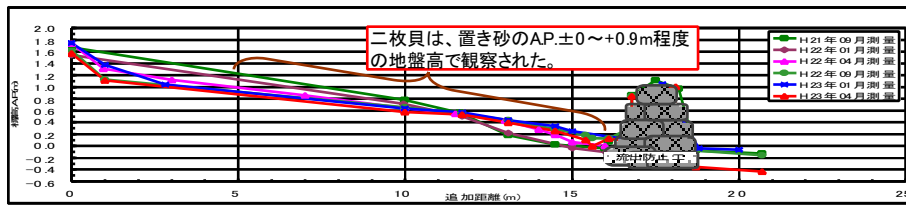


36

砂つけ試験箇所の生物生息状況

(2) 置き砂箇所－低潮帯付近の二枚貝類の加入状況

前回: H23年1月25日(施工1年6ヵ月後)			今回: H23年4月25日(施工1年9ヵ月後)		
					
		殻長5~15mmのアサリ、シオフキガイ、オオガイの幼貝が確認された。			殻長8~18mmのアサリ、シオフキガイ、オオガイ、ヒメシロガイが確認され、前回観察より殻長がやや大きくなっていた。



39

砂つけ試験箇所の生物生息状況

40

(3) 砂つけ試験区における其他生物の生息状況

置き砂で確認された生物	流出防止工に付着、利用する生物
